

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		出会いの場 Leo				公表日		R7年3月31日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点			
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5		利用人数や子ども達の様子をみながら、フリースペースを開放するなど、人数によって工夫している。	スペースが十分に確保されているか等の利用状況を適切に把握し、必要な調整が出来るか、確認して行きたい。			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5		職員配置数は、常に人員配置基準を満たしている。	新しい職員とスムーズな関係が作れるように配慮して行く。			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	3	2	子どもが状況を理解しやすい空間作りを行っている。	子ども達が使用する指導室やトイレはバリアフリーだが、玄関から指導室に入る場所に段差がある為、指導室に入るまでは職員が見守り、必要に応じてサポートしている。			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5		定期清掃、換気、消毒で清潔を維持している。	壁紙や扉等の劣化の際は速やかに交換する様にして行く。			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	4	1	必要に応じて、クールダウン時にフリースペースが使用出来るようになっている。	子どもたち、一人ひとりが落ち着ける空間を今後も工夫し、安心できる場所作りを考えて行きたい。			
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	5		日々のミーティング、毎月のケース会議を行い、業務改善に努めている。	話し合いを繰り返しながら、よりよい業務が出来るように努めて行きたい。			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		毎回、集計結果の見直し、改善に努めている。				
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		日々の打ち合わせや会議の際、意見を聞く場を設けている。また毎月のケース会議は必ず対面で行い、職員同士で話が出来る環境を作っている。				
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。				現在、第三者による外部評価は実施していないが、必要性は感じている。			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5		法人や市が実施する研修には、出来るだけ参加出来るように、勤務調整等を行っている。	研修等開催されているが、タイミングが合わず受講を断念することもある。次年度からはもっと積極的に外部研修を受講できる体制を整えたい。			
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5		毎月の会議の中で内容を決め、作成し、2月に公表している。				
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	5		契約時に保護者に依頼するフェイスシートを基に、アセスメントシートを用いて計画を策画し、それを元に個別支援計画書を作成している。	求められるニーズに対して、適宜改訂を行って行きたい。			
	13	児童発達支援計画を作成するには、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	4	1	作成の際は、職員に聞き取りを行っており直接現場で対応してる職員の意見を取り入れている。	作成にあまり携わっていないと感じる職員もいた為、今後は全職員の話を聞いて様々な角度や見方の支援を作成できる様にする。			
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5		定期的なミーティングで実施している。				
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5		日々の行動観察を記録し、職員間で共有する仕組みを構築している。	職員間で、どんな記録方法が適切なのかを考えて、対応出来るスキルを身に付ける事も課題。			
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5		必要な項目は明確に設定し、子どものニーズに合わせた支援内容を計画に記載している。	支援項目が多岐にわたる為、全てを適切に網羅するのを難しく感じている。			

援 の 提 供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5		内容については、当日の利用人数、特性、天気等を含めて、朝話し合い、予定と変わる事もあるが、臨機応変な対応が出来ている。	立案について、参画できていない職員もいる為、再度検討が必要。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5		子ども達が楽しんで参加出来るように考えている。	事業所にある物品や玩具等、子どもの年齢や特性に応じて変える必要がある。次年度は低年齢の子どもが多い為、検討が必要。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	5			集団活動がメインになり、個別活動が減少する事がある。活動のバランスを調整して行きたい。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	4	1	子ども達が登所する前には職員で話をしており、チーム連携が行われていると感じる。	登所前は、パート職員が不在の事もある為、丁寧な打ち合わせが難しい。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4	1	登所前と同様で行っている。また、職員グループ連絡ツールを利用し、必要な事については共有している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5		支援に関しては、都度記録に残している。検討が必要な内容については、ケース会議の際に話合う様にしている。	記録が埋もれないように、重要なポイントを簡潔にまとめるスキル向上を図りたい。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5		モニタリングの際は、現場職員も一緒に参加し、みんなで話すようにしている。	子どもや保護者からの意見が抽象的で、具体的な課題が見えづらい場合がある為、ヒアリング方法にも工夫が必要。
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5		児童発達支援管理責任者のみではなく、現場職員も同席するようにしている。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5		事業所、センター、療育先等の各関係機関とは電話連絡や対面で話をしており、情報共有を行っている。	併用保育園との連携が図りにくいケースがある。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5		併用での利用を助めており、必要に応じて関係機関のやりとりを行う体制は出来ている。また、相談支援専門員を通して、直接療育先と連携が図れる様に繋いでもらっている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5		就学前に一度見学に来ていただき、就学後は学校へ行く等、連携を図っている。必要に応じて就学サポートブックを提供している。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	5			必要に応じて機会を増やしていきたい。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	4	1	公園での活動の際に、地域の子ども達や保育園の子ども達との交流が出来る様な工夫を行う他、学生ボランティアの受け入れを行っており、交流の機会をも設けている。また、隣接の一般社団法人ぶらっとに来ている地域の子どもたちとの交流は頻繁に行っている。	意図的に機会を提供しているわけではないが、自然な形で生まれる交流を大切にしたい。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5		毎日の送迎時や、連絡帳、情報ツールを使用して連携を図り、共通理解を持って行っている。	保護者がより気軽に相談できる環境を整え、情報共有出来る様に努める。

	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4	1		研修などの案内は行っているが、ペアレント・トレーニング等については行っていない。今後検討して行きたい。	
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5			契約時や変更が合った際に、書面をお渡ししながら説明するようにしている。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5			日々、保護者の方とコミュニケーションを図り、定期的に面談も行っている。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	5			保護者の方に確認していただき、サインをいただくようにしている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5			面談の機会を設けているが、希望があれば随時面談を行っている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	5			随時保護者同士が交流できる場を設けている。またきょうだいもイベントに参加できるようにしている。保護者会、父親会も随時開催している。	イベントに参加されないご家族の方の交流が少なく感じている。大きなイベントではなく、少人数で参加できるイベントの主催を検討する。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5			時間外でもLeo携帯や、情報ツールを使用しいつでも連絡が取れる体制を作っている。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5			通信は毎月1回発行、SNSは週1回配信し保護者の方が見られる様にしている。また法人が運営しているホームページにも情報提供している。	通信やSNSの掲載NGの方に対しての発信の仕方に検討が必要。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5			個人情報等は鍵付きのロッカーに保管している。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5			ボックス、筆談等で、それぞれに合わせた配慮を行っている。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5			イベントの際は、近隣の方にお声掛けし、参加して頂いている。また、クリスマス会では地域の方に役を依頼し、担って頂いた。	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5			毎月の訓練は、近隣の方にも協力して頂きながら、取り組むことが出来ている。	毎月実施し、マニュアルについても閲覧可能にしたファイルをいつでも手に取れるようにし、玄関に置いているが、保護者の方への周知が足りていない。保護者会等で再度周知を行う。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5			外部講師の監修の元、様々な発生を想定した訓練を毎月行う事が出来ている。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5			契約時の書類に記入して頂き、確認することができている。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。				現在、該当者なし。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5			年に3回、事業所周辺の7カ所の公園の遊具点検や周辺の危険物チェックを行っている。破損等ある際は、市に報告をしている。	ヒヤリハットが発生した内容を再度確認し安全管理について今後徹底して取り組む必要がある。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5			連絡ツールアプリを利用し、安否確認を行うこと等を周知している。また、実際に行っている。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5			発生した際は事業所内で話し合いを行っている。また、毎月開催される法人全体での安全管理委員会にて報告し、内容の検討を行っている。	
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5			法人が行っている研修に参加し、知識を深めている。	全職員が参加出来るように出来る限り勤務調整を行って行きたい。	

53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	5	組織的に決定し、資料は作成しているが、現在該当者はなく、計画書に記載している利用児童はいない。	対象の方が来られた際は、速やかに対応できるように書面の準備は行っている。
----	--	---	---	--------------------------------------